

総領事からの活動報告(2月後半)

平成 24 年 2 月 29 日

川原 英一

在マイアミ日本総領事

○マイアミ補習校の学芸会参観

2月17日(土)午後、マイアミ補習校の学芸会を大変楽しく拝見させて頂きました。幼稚園児、小学生そして中学部の生徒の皆さん達が、諸先生方による熱心な御指導と御父母様のご支援の下、この日のために日頃から一緒懸命に学習、練習した内容を、元気よく、立派に発表するのを見て、大変に素晴らしいとの印象を得ました。各学年が夫々に工夫し、また大変充実した内容に感心し、感動致しました。当方が拝見したのは昨年以来 2 回目となりますが、児童・生徒さん達のこの 1 年間の成長の速さには、目を瞠る思いでした。



◆マイアミ・ビーチ市長等との懇談(2月 21 日)

昨年 11 月の選挙結果、マッテ・パワー(Matte Power)同市市長は、見事、3期目当選をされて、



2 年間の任期で再登板されました。同市長さんは、35 年間、マイアミ・ビーチ市の市政にかかわってこられました。姉妹都市関係のある藤沢市を訪問されたこともあり、慶応大学工学部では電気自動車に試乗し、数秒で急加速ができる自動車の高性能に驚いたことや、水族館を訪問したこと、中華街も案内されたことを懐かしく語って下さいました。

同市の財政事情を当方からお聞きしたところ、健全財政を維持し、市の収入源の65%以上を観光関連収入が占めているとの事情でした。因みに、年間10百万人以上の観光客が同市のビーチに憧れてやって来るとのこと、フード・フェスティバル、アートなど展示・催し行事が多く、年中、行事があるとのことでした。市財政が健全なのは、市長さんが相当以前から市職員の空席補充をしないことにより、市予算を6500万ドルほど節約できたとのお話があり、昨今の地方政府の財政難とは無縁であるとのお話でした。また、教育を重視されており、同市内公立学校では、どこでも国際バカロレアを取得できるアドバンス・コースを設けている、中間層家庭の子弟教育の充実を図っており、これは、自分が市議会コミッショナー(議員)時代から始めたとのこと、また、ゴミ埋め立て地がないので、リサイクル運動に市も積極的に取り組んでいるとのお話でした。日本の自治体のゴミ分別の話を興味深そうに聞いておられました。

◆マイアミ大学音楽院ピアノ科主任教授らとの懇談

2月22日、当地マイアミ大学音楽院ピアノ科のロドリゲス教授、高尾準教授と懇談致しました。ロドリゲス教授は、日本では、幼児向けの音楽教育から、小学校、中学校での音楽の科目が毎週あって、世界の音楽を習っていること、学校の吹奏楽クラブ活動も盛んで小学校高学年や中学生になると相当高いレベルの演奏を行う学校クラブがあったと大変に感心をされておられました。フロリダ州に限らないのですが、学校教育の中では音楽科目が殆どない事情があり、



大学学部の音大生であっても、最初は譜面も碌に読めない人が結構いる、こうした現在の教育制度、価値観を見直すべきとのご意見でした。桜寄贈100周年や姉妹都市関係を例に、日本と米国、フロリダ、マイアミとの関係が深いことを申し上げたところ、強い関心を示されました。また、素晴らしい日本の音楽教育の現状を是非見てみたい旨のご発言も同教授からありました。当方からは、マイアミ

市民に日本の音楽を楽しんでもらえる企画をマイアミ大学からの協力を得て今後実施できないかとの御相談もさせて頂きました。

◆NSU(ノバ・サウス・イースタン大学)キャンパス訪問(2月29日)

今年1月末に、当館主催で行った中高生のための折紙ワークショップの開催に全面的協力頂いたNSU(フォートローダーデール所在)の大学キャンパスを訪問して、同大学国際関係専務理事のデナポリさん(左下の写真)のご案内により、大学図書館、ギャラリー、室内競技場、劇場などを拝見しました。同大学創立は1964年なので、日本で最初の夏季オリンピックが東京で開催された年にあたります。最初は、物理・社会科学系の大学院大学としてスタートし、当初学生数が17名から出発し、48年の間に飛躍的發展を遂げて、現在はメインキャンパスの広さが300エーカー、学生数2万8千名と全米でも8番目に大きい私立大学だとお聞きました。大学図書館が学部毎にあります、本部図書館は、プロワード郡に住む方に利用が開放されてお



り、また、大学付属の保育所、小学・中・高校もあります。歯学部や法科大学院のような専門職育成に力をいれているとの説明があり、大学には世界120か国の学生が集まっており、インド・韓国などアジアの学生は約220名います。また、インターネット教育にも力を入れておられるとのことでした。

同大学内の学生食堂の一つで、世界のフード展をしています。ここで、昨年3月に同大学での日本支援の基金活動に中心的役割を果たされた院生の方(右写真の真中の方)ともお会い出来、当方から直接感謝を申し上げました。(了)

